

ループ利尿薬フォーミュラ Ver1

2026年8月14日作成

	推奨薬		オプション			
一般名	フロセミド		アゾセミド		トラセミド	
代表的な製品名	ラシックス		ダイアート		ルブラック（2027年3月31日経過処置満了）	
標準的薬価	GE	先発(ラシックス)	GE	先発(ダイアート)	GE	先発(ルブラック)
(心性浮腫、腎性浮腫、肝性浮腫治療に処方される標準用量の1日薬価)	6. ⁸ ～13. ⁶ 円 (40～80mg/日)	10. ⁸ ～21. ⁶ 円 (40～80mg/日)	10. ⁸ 円 (60mg/日)	14. ¹ 円 (60mg/日)	6. ³ 円 (4～8mg/日)	12. ³ ～15. ⁸ 円 (4～8mg/日)
効能・効果 (内服のみ)	高血圧症(本態性・腎性等) 悪性高血圧、心性浮腫(うっ血性心不全) 腎性・肝性浮腫、尿路結石排出促進 月経緊張症、末梢血管障害浮腫		心性浮腫(うっ血性心不全) 腎性・肝性浮腫		心性浮腫 腎性・肝性浮腫	
用法・用量	1日1回40～80mgを連日or隔日 腎不全時には大量可		1日1回60mg		1日1回4～8mg	
半減期	0.35時間(40mg単回)		2.6±0.2時間(60mg単回)		2.4±0.6時間(5mg空腹時単回)	
特徴など	・広い適応を有し、様々な病態における浮腫・高血圧の治療薬として使用可能で多くのガイドラインで挙げられる。 ・薬価が安く剤形に選択肢があり利便性に優れる。 ・英国及び米国において成人及び小児に対して「浮腫」、成人に対して「高血圧症」の適応を有している。		・1日1回投与 ・利尿作用が緩和で持続的 ・フロセミドとの比較検討で慢性心不全に対する長期的な治療効果について心血管死またはうっ血性心不全による予定外の入院リスクを減少させた(2)		・1日1回投与 ・OD錠が存在している ・慢性心不全を対象としたフロセミドとの比較試験で、忍容性・心不全による再入院などについて良好な結果があるとの報告があり(4) ・抗アルドステロン作用を有する ・米国・英国で「浮腫」「高血圧症」の適応を有している	

【解説】

・利尿薬は心不全患者のうっ血に基づく労作時呼吸困難、浮腫などの症状を軽減するために最も有効な薬剤である。1)

・利尿効果は強力であるが、降圧効果は比較的弱い。

・ループ利尿薬は、LVEFの低下した心不全(HFrEF)において「うっ血に基づく症状を有する患者に対する投与」が推奨されている(推奨クラスⅠ、エビデンスレベルC)

・LVEFの保たれた心不全(HFpEF)では「うっ血性に伴う自覚症状軽減目的での利尿剤投与」が勧められる。(推奨クラスⅠ、エビデンスレベルC)

・HFpEFのうっ血に対してアゾセミドとフロセミドの比較で短時間作用型利尿薬(フロセミド)より長時間作用型利尿剤(アゾセミド)のほうが予後改善効果が高く、特に心不全の再増悪を抑制する効果が大きかった。2)(J-MELODIC試験)

・CKD・心腎症候群を併存する患者に対しては「ループ利尿薬の過度な使用は腎機能を悪化し、予後を悪化させる」ことが報告されており必要最低限の使用にとどめるべきであるとされる。

・高度腎機能低下・末期腎不全患者ではまずループ利尿薬の投与が勧められるが、ループ利尿薬のうちフロセミドを作用時間が短いため1日複数回の投与が必要であるため、より作用時間の長い薬剤を用いることも勧められる。

・ループ利尿薬各種は、注意や併用注意について大きな差異はない。

・利尿薬の副作用として、高尿酸血症・高中性脂肪症、耐糖能低下など代謝系への悪影響、電解質異常に注意が必要である。3)

・ループ利尿薬の投与にあたり高齢者には注意が必要。

・等価換算の目安(参考)：フロセミド20mg≒アゾセミド30mg≒トラセミド4mg

【参考ガイドライン・文献】

1):急性・慢性心不全診療ガイドライン(2025年改訂版)

2):J-MELODIC試験)

3):高血圧治療ガイドライン2025

4):日本フォーミュラ学会 フォーミュラNo:24 ループ利尿薬フォーミュラ